

「少子化の現状及び今後の支援対策について」

3月23日～24日の日程で、御法川代議士の協力をいただき、所属する会派「さきがけ」の皆さんと、議員会館にて首相が推進しようとしている「異次元の少子化対策」について、内閣府の担当者から説明を受けました。しかし、今はまだ国会での審議中であり、新しい情報は得られませんでした。

特に、「給食費無償化」は、御法川代議士が熱心に取り組んでおられるテーマでもあるので、そこら辺の具体的な政策を伺いたかったのですが、大きな収穫は得られませんでした。

代議士からは、子育て費用の軽減に加え、

- 1, 生活が苦しく、子供への唯一の栄養を得る機会が給食である家庭が増加していること。
- 2, 給食の質を上げること（1食500円程度）で、地域の地産地消を促し、食育と農家経営に寄与できること。
- 3, 予算がおよそ9千億円。

などの政策であることを事前に伺っておりましたが、東京に住んでいる官僚、政治家には、地方の現状を真っすぐ訴えるべきと思ひ、質疑の際には

- 1, 少子化は、「若者の貧困化」が原因で、若者は結婚をあきらめざるを得ないことと捉えている。
- 2, 地方の衰退が著しく、若者を引き留める力が無いことが、地方の衰退にさらに拍車をかけている。
- 3, 生まれた後の政策ばかりでは、効果は望めない。
- 4, 横手市の昨年の出生数は、343人だ。民間保育園の経営が厳しくなっている。
- 5, 地域間格差、競争により、北上市に移住した世帯がいる。

といった、苦情・意見・横手市の現状を訴えてきました。

国が「異次元」の少子化対策を進めるのであるのならば、「異次元を実感できる支援策」を増税なしに行って頂きたいと思ひます。

